
そこにある幸せ

K T E

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そこにある幸せ

【著者名】

ZZマーク

【作者名】

KTE

【あらすじ】

智也と千恵、二人の短い物語り。ただ、短い話の中にも一人の恋心をたくさん詰め込んでみました。軽い気持ちでほんのり見てください。

- 1 -

「ねえ、智くん

111

- 1 -

「無視しない」でよい、智也。」

せっかく勉強に集中してたのに、目の前で騒がれたらたまたまんじやないぞ！

……よし、先にハツキリさせておこう。

俺は勉強していた机から立ち上がり、真後ろにいる幼なじみに話しかける。

「おー、千恵ー！」

「あ、やつと話してくれた。なーに、智くん？」

「…今、俺が何をしてるかわかるか？」

「うん、わかるよ。月曜日の追試の勉強でしょ？」

「そう、追試だ。そこまで確認すりゃわかるよな？」

「？……わかんにゃいんだけど？」

「次のテストは落とせないから、この週末は勉強の邪魔すんじゃねえっつーんだよ……！」

俺は大きな声で、千恵に怒鳴り込んだ。

当然と言えば当然だ。さすがに追試を落とすわけにはいかんからな。

しかし、俺が土田を犠牲にして勉強しているのに…この女、両耳アマに指を突っ込んでそっぽ向きながら知らんぷりしてやがる…

「おー、ちゃんと聞け！ 僕が後輩になつてもいいのかよ…？」

「…特に気にしません

「何だと…？　俺が後輩になつたら、千恵も立場的にマズイだろ？
！」

「だから私、そんなの気にしないもん！　だつて智くんが好きだから、追試を落として後輩になつちゃうおバカな智くんでもいいんです！！！　『I、LOVE、YO』…おバカさんな智くんも、この意味はわかりますよね？　ね！？」

ち、チクショウ…そこまで堂々と言われたら、照れちまうじやねー
か…

グイッと千恵の顔が近づくのを感じ、俺はすぐに自分の机に戻った。

もちろん、恥ずかしかったからである。それ以外に理由はない。

まったく…千恵の存在って、軽い犯罪だよ…

千恵は細つちいの、元の、出るといひ出でるし…顔立ちもカワイイし、勉学も律義にこなすもんだから、もう完璧。パーフェクトでしょうよ。

それにつの間にやら、生徒会長なんていう地位まで任せられてるわけで、毎試験赤点常連の俺が幼なじみになれたのは、いわゆる奇跡つてやつだな。うん、神に感謝。

そんな千恵に告白された時は、マジで意識がどびやくなつたんだよなあ…いや、あれはすんげー可愛かった。

『…』

『 小さい時から、智くんが大好きです！ こんな私で良ければ、彼女にしてください…！…』

……潤んだ瞳で、見つめてんじやねーよ…失神しちまつて、コト。

顔を真つ赤にして震える千恵に、俺は返事をする前に抱き着いちまつてさ…今になつて考えたら、俺の方が犯罪者だな。

ちなみに、『こんな私で』つて言われたことに、むしろこんな俺でいいのかと聞き返したら、千恵はどう答えたと思つ。

『……だつて智くん、私をお嫁さんにしてくれるんでしょ？ 幼稚園から、ずっと楽しみにしてるもん… ハヘツ』

グハツ！？ 『……なんて強力な一撃を……頼む、その照れ笑いはやめてくれ！ 殺す気かつ！

そりや俺だつて千恵との約束を忘れるわけがないけど、まさか千恵が覚えてるだけじゃなく楽しみにまでしてるとは…

胸の奥から込み上げてきた感情を押さえられなくなつた俺は、千恵に一言『『「わん…』』と謝つて、千恵の唇に口を押しつけた。

まあ、あの時のキスから俺たちは《すでに》な関係（英語苦手）

になつたんだけど…

「ト～モく～ん！ 私、さ～み～し～い～！～！」

「ダアーツ～？ 少しは静かにしてろ～！」

「や～だ～！ 智くんと、キスしたいんだも～ん！」

「お願いだから今は勘弁してくれ。追試をクリアしたら、千恵の言う通りにするから、な？」

「ムリ！ 智くんが勉強してる姿つてカッコイイんだから、私は、もう、我慢の限界なの！～！～！」

千恵はかなり興奮しながら、床をドンドンと踏み鳴らしてゐる。マタドールを前にした闘牛みたいで、ちよつと面白い。

…とか冗談言つてゐる場合じやねえ！ セつきから勉強がまるで進んでねえぞ！

ハツキリ言おう。千恵の彼氏になつてから、少し瘦せた気がする。多分、千恵のラブ病が原因だ。

ただの幼なじみの時から普通に腕を組んだり、お弁当は千恵が作つてくれたりしてたもんだから、彼氏彼女にランクアップしてからはもう大変。

朝から晩までベタベタ引っ付いて… 5秒と会話が途切れたら、上田使いで…『キスしてくれなきゃ泣こちやうぞ…』とか可愛く脅すし…

つまりアレだ。千恵つて頭は良いけど、男女関係に関してはコニッシュターが外れるのだ。

今のところ、まだ一線は越えてないが…近づいて、襲われてしまふかも知れないな…

「ね、お願い？ たつた一回のちゅーで、こんなカワイイ彼女を幸せに出来るんだよ？」

「…………」Jの嘘つきが。今まで、一回で終わつた試しがないだろ…俺が何回、騙されたと思つてんだ！！！」

「うう、そ、それはね…エヘヘ…」

「Jめかしてんじやねー…」

「…そんなこと言つて、智くんも騙されてるつてわかつて毎回キスしてくれるじゃん…優しいね、智くん。大好き！」

「…ここ…急に抱き着くんじゃねーよ、拒めないだろ…

なんだかんだ言つても、『んな俺をギュッと抱きしめてくれる女は、千恵一人なわけで。

他にも色々と言いたい事があるけれど、しつかりしてて周りからの信頼もあるこの女は、俺の前でだけはわがままな可愛い女の子なわけで。

……結局のところ、千恵は俺の……

未だに抱き着いたままの千恵に、聞いかける。

「なあ、千恵」

「な～に、智くん？」

「本当に、ホント～に、一回だけでいいんだな？」

「……それを私に聞くの？……智くんのイジワル

「じょうがねえな……ほら、『一回』だけだぞ？」

ちよつとだけ目を見つめ合つて、『俺も好きだよ』と声こぼれでや

……千恵の口元直に伝えていく。

……キスだけで嬉しそうな顔しゃがつて……つて、俺も満更じやな
いけどな……

それから、一桁を越えるキスのせいだ…その日、追試の勉強は出来ませんでした。

…お話は続く、かも？

(後書き)

はい、作者です。

に繋がるので、感想など簡単にでも書いてもらえるとありがたいです。では、また次回の作品です。

次回作のやる気

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8388h/>

そこにある幸せ

2010年10月28日07時13分発行